

はじめての
アートフェアガイド

Art

Fair

Guide

For Beginners
Book

制作
TODOROKI



tdrk-inc.co.jp





はじめてアートフェアを訪れるあなたに

美術作品を購入したことはありますか？

アートは美術館で見るだけでなく、

購入することでより身近に楽しむことができます。

また好きなアートを手元に置くだけでなく、

アーティストの応援にもなります。

けれどもどうやって買ったらいいかわからない

というあなたに、ここではアートフェアの

楽しみ方をご案内します。



購入した作品は 持って帰ることができる？

アートフェアはアーティストにとって販売と同時に発表の場です。もちろんその場で持ち帰ることができる作品もありますが、多くの人に作品を見てもらいたいというアーティストもいるので、アートフェア終了後にお渡しする場合があります。ギャラリストやスタッフに相談ください。

ほしい作品はあったけれど、 価格やサイズが希望と合わない...

「このアーティストのもう少し小さいサイズの作品はありますか？」「こんな雰囲気で〇万円程度の作品はありますか？」など、具体的にギャラリストに聞いてみましょう。会場に展示してなくても、バックヤードやギャラリーに希望に合う作品があるかもしれません。



アートフェアの楽しみ方について紹介しましたが、自分のペースや見方で好きな作品を見つけてみましょう。

あなたにとって大切な作品に
出会えることを心から願っています。

どこで見られるの？

アートフェアはコンベンションセンターや、ホテルなど、さまざまな場所で開催されます。

広い会場では一度にたくさんのアート作品を見ることができますし、ホテル客室の展示では「自分の部屋に飾るなら…」と想像することができて、開催される会場ごとの楽しみ方があります。



服装に指定はありますか？ 大きな荷物を持って入ることはできますか？

歩きながら見て回るため、動きやすい服装・歩きやすい靴がおすすめです。
とはいえせっかくの機会ですので、ぜひご自身のお好きな服装でお越しください。
また大きな荷物は、大抵の場合、クロークに預けることができます。



所要時間はどのくらい？

一概には言えませんが、アートフェアをゆっくり見て回るなら休憩も含めて3~4時間ほどかかるでしょうか。

広い会場なら気になったブースを選んで見るなど、無理せず自分のペースで回りましょう。

サテライトの会場がある場合もあります。



作品について聞いても大丈夫？

ぜひ、積極にご質問ください！

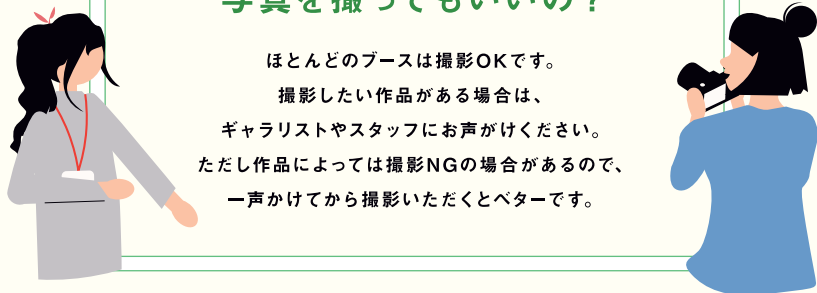
初歩的な疑問であっても、ブース内のギャラリーのスタッフは丁寧に説明をしてくれます。

また、タイミングによっては制作者であるアーティストから直接話を聞くこともできます。作品への理解がより深まるので、ぜひ気になったことはためらわずにお尋ねください。



写真を撮ってもいいの？

ほとんどのブースは撮影OKです。
撮影したい作品がある場合は、
ギャラリストやスタッフにお声がけください。
ただし作品によっては撮影NGの場合があるので、
一声かけてから撮影いただくとベターです。



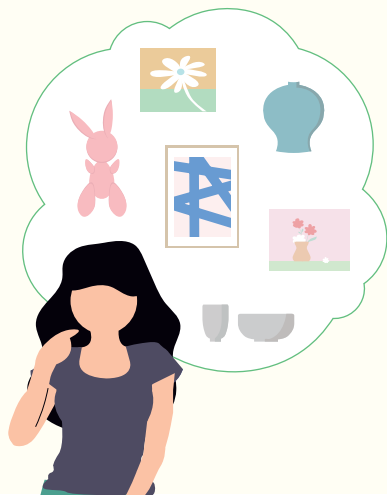
作品を触ったり 持ったりできますか？

基本的にはNGですが、器などは手に取って感触を
確かめることができる場合があります。
また絵画や立体でも例外もあります。
気になる場合はブースにいるギャラリストや
スタッフに聞いてみましょう。



どんな作品を買ったら いいのかわからない...

まずは、気になる作品を見つけてみましょう。
色々ブースを回り、ギャラリストやアーティストから
作品の話や見つけやすいです。
気になる作品を見つけたけど、購入した後の
展示や保管に不安がある場合は、
ギャラリストやスタッフにご相談ください。
ベストな方法を提案してくれると思います。



アートフェアとは？

様々なアートギャラリー※が一堂に会し、
美術作品を展示・売買するイベントです。
主にギャラリー単位のブースで構成されています。
気に入った作品はその場で購入できます。
一度にたくさんの作品を見ることができるので、
アートを初めて買う方にもおすすめです。
作品に触れぬよう注意が必要ですが、
お子様と一緒に大丈夫です。

※アートギャラリーとは美術品を展示・紹介する施設や組織。
一般的にギャラリーと称される。ここでは展示のみを行う
公共ギャラリーでなく、作品を販売する商業ギャラリーを指す。



美術館とアートフェアの 違いが知りたい！

美術館は鑑賞を目的としているのに対し、
アートフェアは展示・売買を目的としています。
アートフェアでは初めて見るアーティストの
作品ばかりかもしれません。
それは美術館のようにすでに評価されているのではなく、
今後評価される可能性のあるアーティストだからです。
その上で「自分ならどの作品を買うか」という視点を持つと、
作品の見え方が変わってきます。

